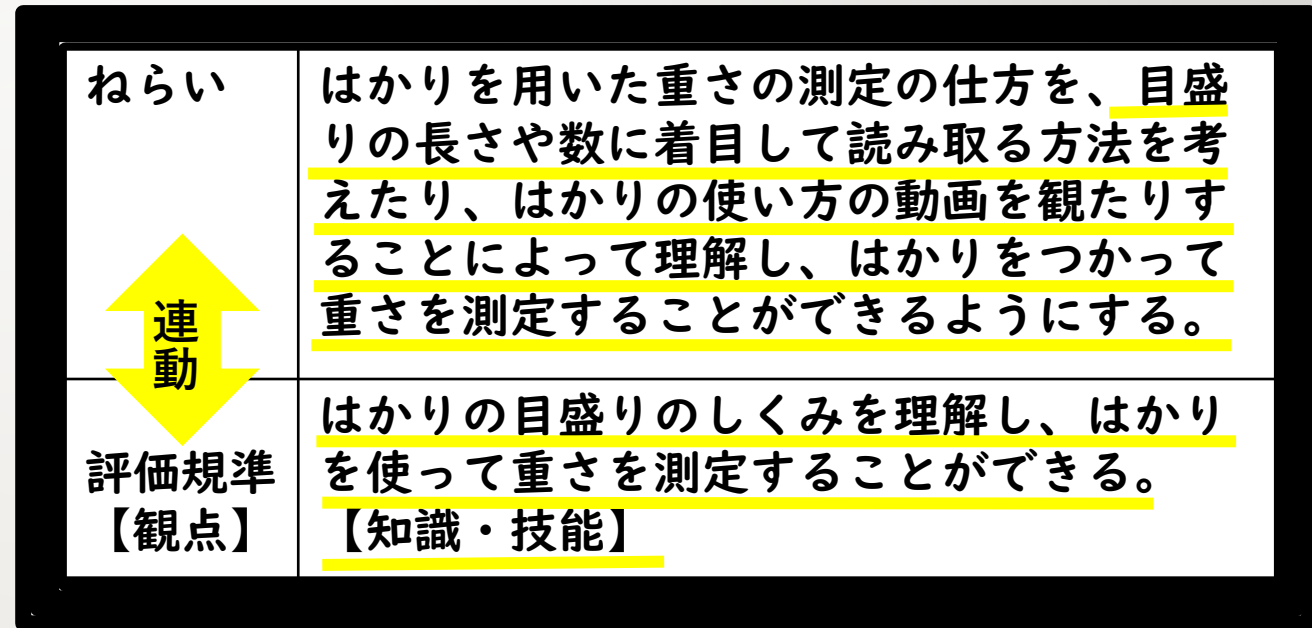


①本時の評価規準が明確であり「ねらい」との連動が図られている

由布市立塚原小学校 第3学年 算数科「重さ」

指導略案

単元	単元名等	重さ
	目標	重さの単位「g、kg」について知り、測定の意味を理解し、単位を適切に選択して重さを測定する力をつけるとともに、長さ、かさ、重さの単位の関係を統合的に考察する力を身につける。また、重さを比べたり、測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	主な学習活動や指導上の工夫	・大きな数の並び方の時に学習した数直線の読み取り方を振り返り、はかりの目盛りを読み取る活動を行う。 ・はかりの使い方を理解しやすいように、ICTを活用する。
本時 (3/全9時間)	ねらい	はかりを用いた重さの測定の仕方、目盛りの長さや数に着目して読み取る方法を考えたり、はかりの使い方の動画を観たりすることによって理解し、はかりをつかって重さを測定することができるようにする。
	評価規準【観点】	はかりの目盛りのしくみを理解し、はかりを使って重さを測定することができる。【知識・技能】
	展開	1. 問題を読み、めあてをつかみ、学習の見通しをもつ。 【めあて】はかりを使って正しく重さをはかるう。 ○はかりを見て気づいたことを発表させる。 ・数直線に似ている。 ・めもりの長さが3種類ある。 2. 課題から、筆箱の重さを考える。 【課題】どうやったらめもりを早く正しく読めるかな。 3. めもりの読み取り方を交流する。 ・200gと5gの小めもりが8めもり分で240g ・250より10gの中めもりが1めもり分小さいから240g 4. 本時のまとめを行う。 【まとめ】 ・斜に近い大めもりや中めもりから数えれば早い。 ・大めもりや中めもりを考えて数えると正しく読める。 5. はかりの使い方の動画を視聴する。 6. 振り返りとして、自分の筆箱の重さを測る。 【振り返り】はかりを使って重さをはかることができた。 ・はかりの問題を練習する。 (ゴールの姿) ・はかりを使って、自分の筆箱の重さを正しく測定できている。



ねらいと評価規準の連動が図られている。

② 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」

指導略案

津久見市立千怒小学校 第5学年 算数科「平均」

単元名等	平均														
単元	<ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの量を同じ大きさの数量にならすことで妥当な数値が得られる場合は、測定値を平均するよびことを理解し、平均を求めることができる。 ○積極的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察し、それを学習や日常生活に生かしている。 ○平均について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを探り求めたり考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしている。 														
主な学習活動や指導上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○練習事項を学級掲示の中に位置づけておく。 ○計算の際につまずきが無いように電卓を積極的に活用し、電卓の使い方を確認する。 ○数学だけでなく読み取りが難しい可能性のあるため実際に地図を用いて長さを確かめる。 ○自分の考えを持ち寄り、発表したりすることが苦手を克服できることを考えグループ活動を取り組み協力できるように促す。 														
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○とびぬけた値のある長さの平均の求め方を、グループ活動で話し合うことを通して、とびぬけた値を含めないことを、自分の意見で文章や式、地図を用いてノートに書き説明できるようにする。 														
評価の観点【観点】	<ul style="list-style-type: none"> ○とびぬけた値を含むばらつきのある長さの平均を求める場面や、とびぬけた値を含めないことなどを自分の意見で文章や式、地図を用いてノートに書き説明できる。 														
展開	<p>○千怒小学校から津久見町までの距離を地図で測る。</p> <p>測るとき、長さを前半のばらつきが出るように距離を調整する。</p> <p>○下記の表付きの問題を配布。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>班</td> <td>1班</td> <td>2班</td> <td>3班</td> <td>4班</td> <td>5班</td> <td>西岡</td> </tr> <tr> <td>距離</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>☆</td> </tr> </table> <p style="margin-left: 20px;">☆・・・とびぬけた値を設定する</p> <p>○ノートに貼り付けそれぞれの測った数を表に書き入れさせる。</p> <p>○問題をみんなで読み直すことを確認する。</p> <p>【めあて】 平均について自分の考えをもって説明しよう。</p> <p>○平均の求め方について理解を確認する。（全て定めて、データの個数で測る）</p> <p>○平均を求める。（電卓の使用）</p> <p>○とびぬけた値も含めて計算していると考えられるので、式と答えを確認する。</p> <p>○自分たちの測った距離ととびぬけた値を含めて計算している平均を比較し、二つの値が離れすぎていることに着目させ、課題に位置づける。</p> <p>【課題】 自分たちが測った距離と求めた平均がはなれている時はどうしたらよいか。</p> <p>○考えのヒントを子どもたちの意見から出させ黒板に位置づけたり、隣の席の人と話し合ったりして見直しを持たせる。</p> <p>○ヒントや隣の人の話をもとに、自分の考えをノートに書く。</p> <p>○地図など視覚で分かるものを用いて、課題を再認識できるようにする。</p> <p>○自分の意見を持って班で話し合う。</p> <p>○自分の考えをホワイトボードにまとめる。</p> <p>○他の班の意見を見に行く時間を設け、自分たちの班の考えを広げたりする。</p> <p>○他の班の意見も含めたホワイトボードを完成させる。</p> <p>一考友の役割が分かるように他の班の意見を読み取る内容は消さないように指導する。</p> <p>〈予想される班での意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大きすぎる数は含めずに平均を出した。（データの個数も減らしている） - 大きすぎる数は含めずに平均を出した。（データの個数は減らしていない） - 計算の内容で大きすぎる数を念のため計算している。 - データの個数を減らして計算している。 <p>○ホワイトボードを黒板に位置づける。（同じ意見に分類する）</p> <p>○自分の班の意見を発表する。</p> <p>○疑問や質問があれば全員で話し合う。</p> <p>○友だちの意見や発表を聞いて、自分の言葉で改めて課題に対する答え（説明）をノートに記入する。【評価】</p> <p>○ホワイトボードの中からまとめに使う言葉などを見つけて、まとめに位置づける。</p> <p>【まとめ】 大きすぎる数を含めずに平均を求めれば測った距離に近づけることができる。</p> <p>さ・・・さらに、いろいろなとびぬけた値の問題を取り組みたい。</p> <p>す・・・○さんの説明でとびぬけた値を含めずに計算することが分かった。</p> <p>【振り返り】 が・・・とびぬけた値があった場合の平均の出し方について班での話をがんばった。</p>	班	1班	2班	3班	4班	5班	西岡	距離						☆
班	1班	2班	3班	4班	5班	西岡									
距離						☆									
評価	平均値に影響が出る場合はとびぬけた値は平均に含めないことを説明できる。														

千怒小学校の振り返りの視点

さ・・・さらに、いろいろなとびぬけた値の問題を取り組みたい。

【振り返り】 す・・・○さんの説明でとびぬけた値を含めずに計算することが分かった。

が・・・とびぬけた値があった場合の平均の出し方について班での話をがんばった。

学校全体で組織的に振り返りに取り組んでいる。

視点・・・さ・す・が


こんな気持ちで、ふりかえろう

さすかあ！ (さ▽す)

さ さらに、どんなことを知りたいかな？

す すこいなあ！ 友だちの考えで、わかったよ。

が がんばったよ！ 今日の授業で、できるようになったよ。



③「努力を要する状況」の学習者に対する手立てが工夫されている

臼杵市立南中学校 第2学年 国語科

「敬語を正しく使えるようになろう」

指導略案

教科・領域	国語	単元名 (生徒目)	敬語を正しく使えるようになろう	本時(2/2)
単元の目標	(1) 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知識及び技能) (2) 言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)			
本時のねらい	敬語の働きについて、誤った敬語の使い方をしていく場面を、友達と一緒に正しい使い方に直し続ける活動を通して、理解し、話や文章の中で使うことができるようにする。			
評価規準	敬語を使う生活場面を想定し、話や文章の中で正しく使うことができる。【知識・技能】			
特別な教育的支援を必要とする児童生徒やつまづきの顕著な児童生徒への配慮(手立て等)を必ず位置づけます。				
				○前時の復習をさせ、「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」「美化語」の意味を確認させる。
				めあて 敬語を正しく使うことができるようになろう。
				○いくつかの、誤った敬語の使い方をしていく場面を示す。
				◎文字だけでは場面をイメージしにくい生徒には、それに関わるイラストを用いて、場面をイメージし活動に取りかかりやすいようにする。
				課題 正しい敬語の使い方にするには、どうすればいいだろうか。
				○グループに分かれ、担当する場面の誤った敬語を、正しく書き直させる。
				◎敬語の正しい使い方には自信がない生徒には、前時の学習で敬語についての理解度が高かった生徒と意図的にペアにすることで、スムーズに活動に入れるようにする。
				◎「尊敬語」と「謙譲語」の判断が難しい生徒には、隠しやすいつ敬語を一覧にした「ヒントカード」を用意し、動作主が自分か相手かで使われる敬語を判断できるようにする。
				○正しく言い換えた敬語の場面をロールプレイし、「どう敬語の使い方が出ていて、どう直したのか」を説明させる。その際、「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」「美化語」という言葉を使うように指示する。
				○それぞれの班から出された言葉をもとに、まとめさせる。
				ほどめ 誤った敬語の使い方は、尊敬語を使うべきところで謙譲語、謙譲語を使うべきところで尊敬語としてしまうことが多い。正しい敬語の使い方をするには、その動作をしている人が自分なら尊敬語、相手なら謙譲語ということ意識する必要がある。
				○ワークの総括を解いて、学習内容の定着をはかる。
				○学びを自覚させるために振り返らせる。
				振り返り 〇どこが誤っているのが簡単に分かるものもあれば、難しいものもあった。難しいと感じたものは、普段使い慣れない言葉だったので、普段から敬語を使うようにしなければいけないと思った。 ・自分の動作でなければ謙譲語だと思っていたが、家族や同じ種類の人の時にも謙譲語を使うことが分かった。まずは、相手を敬う敬語をきちんと使えるようになりたい。



◎特別な教育的支援を必要とする児童生徒やつまづきの顕著な児童生徒への配慮(手立て等)を必ず位置づけます。

○前時の復習をさせ、「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」「美化語」の意味を確認させる。

めあて 敬語を正しく使うことができるようになろう。

○いくつかの、誤った敬語の使い方をしていく場面を示す。

◎文字だけでは場面をイメージしにくい生徒には、それに関わるイラストを用いて、場面をイメージし活動に取りかかりやすいようにする。

課題 正しい敬語の使い方にするには、どうすればいいだろうか。

○グループに分かれ、担当する場面の誤った敬語を、正しく書き直させる。

◎敬語の正しい使い方には自信がない生徒には、前時の学習で敬語についての理解度が高かった生徒と意図的にペアにすることで、スムーズに活動に入れるようにする。

〇〇の生徒には、～して、□□ようにすると位置付け、具体的な手立てを工夫している。

個別の指導計画を活用しましょう

④生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

指導略案

大分市立春日町小 第4学年 道徳科

「良太のはんだん」

年・組	教科	単元(主題)及び題材名	本時
4年1組	道徳	かたよらない態度で C-13【公正・公平・社会主義】「良太のはんだん」	1/1
ねらい	「セーフ」とはっきりとした声で言い切った良太はどんな気持ちで、〈全体〉〈責任〉〈反省〉の3つの観点から話し合わせることで、誰にでも平等に接する(「公正・公平」)ことは大切だという道徳的判断力を育てる。		
過程	学習活動等		
導入	1. 本時のめあてを知り、学習の見通しをもつ。 【めあて】「公正・公平」について考えよう。		
展開	○「公正」とは何か、「公平」とは何が専ら、子どもたちに本時は「公正・公平」について考えることを意識させる。		
	2. 「良太」の言動の変化や、変化のきっかけとなった出来事やその時の気持ちを考えながら教材を読む。 【補助発問】「ぼくにはふんていたように見えただけ…」と答えた良太は、どんな気持ちだったか。		
	○あゆ美のチームのみんなより親友である光一の味方をした良太の気持ちを押さえる。 3. 中心発問を投げかける。 【中心発問】「セーフ」とはっきりとした声で言い切った良太はどんな気持ちだったか。		
	○自分の考えをワークシートに書かせた後、3人トークを行わせる。(自己存在感の感受) ○自分の考えがもてなかった児童は、友だちの考えを聞いて分かったことや気付いたことを書いてもよいことを伝える。(共感的人間関係の育成)		
展開	○全体交流を行い、考えを〈全体〉〈責任〉〈反省〉の3つの観点に分け、板書に位置付ける。 〈全体〉→みんなが納得できるように。→みんなが楽しいと思えるように。 〈責任〉→自分が判断しないといけないから。→自分の役割に責任をもったから。 〈反省〉→相手によって態度を変えたことが悪いと思ったから。 →親友だからと特別扱いしたことが良くないと思ったから。		
	4. 深める発問を投げかける。 【深める発問】誰にでも平等に接する(「公正・公平」)と、どんなよいことがあるか。 ・自分もみんなもよい気持ちや嬉しい気持ちになる。 ・みんなでまわって、楽しく過ごすことができる。 ・友だちともっと仲良くなる。→友だちから信頼してもらえる。		
終末	5. 【まとめ・振り返り】 ○「じ」(自分を振り返って)、「と」(友だちとの交流を振り返って)、「こ」(これからの自分について)の3つの観点で本時を振り返らせ、交流させる。		

○自分の考えをワークシートに書かせた後、3人トークを行わせる。
(自己存在感の感受)

○自分の考えがもてなかった児童は、友だちの考えを聞いて分かったことや気付いたことを書いてもよいことを伝える。(共感的人間関係の育成)

校内研修では、生徒指導の4つの視点を意識し、指導案に位置付ける等、組織的に取り組んでいる。